

**AD**

**emonica**

**R18**



おしまい  
終末だ——っ!!

食料は底を尽き  
〈使徒〉も同士もみな  
十字軍の火に焼かれた!

奇形児のお前を  
養ってきた恩に  
その魔羅で報いよ

俺は神の国の到来まで  
お前の精液スベルマで生きるッ



異端  
滅するべし

斬!

うわああああああ  
ああああああああ  
ああああああああ



娘よ  
私と来なさい

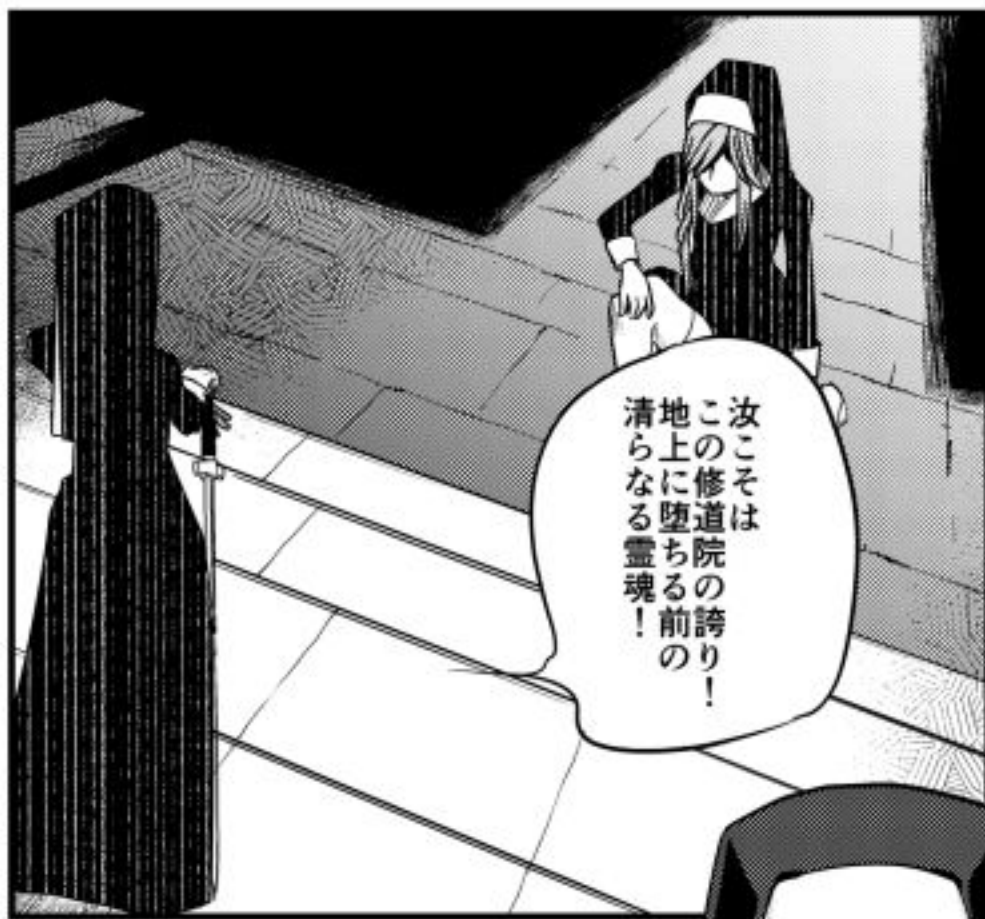
この地獄の山から降りて  
地上の天使になるのです



おや...  
女兒に魔羅とは

すばらしい  
これも神の  
御業ですか

十年後……



汝こそは  
この修道院の誇り！  
地上に堕ちる前の  
清らかなる靈魂！



おおモニカ！  
光輝なるモニカ！



その聖魔羅こそは  
神の御しるし！

世俗の性別なき  
両性具有  
すなわち天使の姿形  
汝完全なり

神の御剣  
サントクトーモニカ

いま西南の地に  
再び暗黒星在り！

聖魔羅もって  
悪鬼討つべし！

民には慈愛の  
スヘルマ  
聖液をほどこし

悪霊においては  
スヘルマ  
怒りの御霊にて  
鎮めんとす

慈悲深き  
聖乙女よ！



は！



フランチェスカ  
修道院長！

おのれ悪魔に扱られた  
左眼が疼くわ~~~~っ



グヌワ

クカッ



聖痕より  
迸る聖血！



偽りの使徒  
黙示の悪魔  
反キリスト来る！

紀元一三〇七年  
トリヴェーロ山の大暗黒！



十二分に



この疵の縁は  
知っておりますね

天より降りて  
両手貫く聖剣もて  
我黙示の悪魔調伏せり！

死闘の末、  
彼奴は右の角！  
私は左の眼を失った

しかれども彼奴は  
再び地上で悪をなさんと  
解き放たれた……



此が彼奴の角！  
持って  
お行きなさい

右の角の欠けた  
不具こそが  
彼奴たる証！

私はもはや老いている

あの異端の山で  
育ったお前とて  
彼奴とは因縁  
浅からぬ身！

調伏には  
お前が行くのです

教皇庁の  
異端審問団に  
先んじて悪魔を  
屠れば彼らも  
お前の聖性を  
認めざるをえまい

両性具有にて  
崇敬を集めるが  
異端などと戯言も  
言えなくなりましょう

しかし……



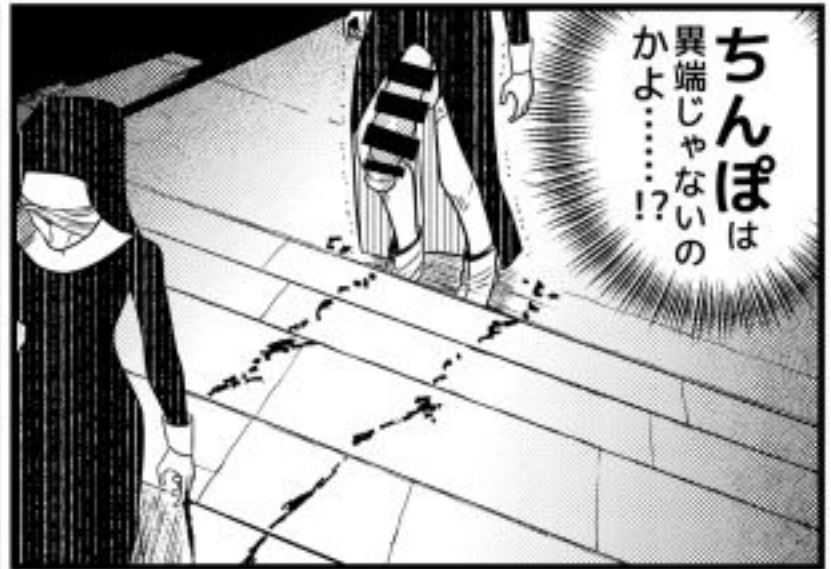
まだお前は聖魔羅に  
疑を抱いて  
いるのですか  
モニカ



疑信!  
それは悪魔の芽

すなわち  
異端!

ちんぽは  
異端じゃないの  
かよ……!?



修道院長は  
私を認め  
てくれているが……

私など所詮  
異端宗派の山育ちの  
つまらないに  
過ぎない……



あなたの  
揺らがない信仰心の  
所以を……



……修道院長  
出立に迷いがなきよう  
一つお聞きして  
よろしいですか



私が信ずる宗教は  
世界と自分の関係を  
説明づける脈絡

この不確かな世で  
自らを支える

何よりも  
確かな  
論理を超えた  
神の論理

お前もそう  
心得なさい

では…この身こそは  
何の脈絡もないのか…  
不条理ではないのか…

自分を支える  
理がない

私はお前を見たとき  
神の奇蹟を  
直観しましたよ

確かな  
信仰がない

女体に魔羅とは  
あらゆる法則を  
超えた完全なる  
調和では  
ありませんか

天使に等しい  
その身に  
誇りを持つ  
ことです

私は……  
修道院長とは  
何もかも違う

…御意



天使と人は呼ぶ

〈天使〉  
モニカ様だ

修道院長の賛辞も  
民衆の喝采も  
心をむなしく  
すり抜けるばかり

悪魔は偽りの使徒  
天使を騙り  
悪魔を被う私

宗教を中心に廻る世界で  
この身を証立てるには  
みにくい魔羅に  
すぎるより他はない

聖魔羅のモニカ様が  
悪魔を調伏に  
参られるぞ〜っ!!

なんと神々しい  
お逸物!

魔羅に  
接吻を

ア  
ア  
ア



私は悪魔と何が  
違うというのか?



修道院長  
司祭ベネデット

お手紙で  
伺っておりますぞ

これは  
〈聖痕〉の誉れ高い  
フランチェスカ殿の…



聖魔羅の  
天使モニカ殿

キリスト教世界に  
誇る聖なる魔羅

我が修道院に蔓延る  
悪霊の調伏に  
何卒ご助力を……

なんとか  
この二つのか  
名か

しかし……  
女人の魔羅で  
悪を祓うとは  
いかにも異教的

それはもう  
性交なのでは？

天使というには  
地獄の沙汰  
ですな

ナ  
マ



我が聖魔羅は  
悪を討ち滅ぼす  
神の御剣

いやらしい  
生殖の器官に  
あらず

貴殿ら……  
無礼でありますぞ!!

きッ

きッ



いや……ほんの  
冗談でして

そんなに  
怒らなくて  
も……

お前たち……  
客人に対して  
礼節を弁えなさい

しかしこの修道院に  
本当に悪魔など  
いるものか?

天使なら  
見たことがあるぞ

おや……噂をすれば  
我らが天使の  
お通りだ

……恐いな

も?

天使?

天使？

美しい……修道士……？

まるでほんものの天使……

私のこと呼んだ……？

私とは違う

こ、こらアンジェロ……

ソドミー男色！

ぐッ！

悪習が蔓延っているとは聞いていたがこうもものなのか……？

これは天使と名高い聖女様……

どうしたのです？  
そんな私の顔を見て

いや……あなたは実に美しい顔を

異教の女神かと思いましたがよ

まあ！淫蕩な女神だなんて！

いたいけなあなたのことか  
ソリックの僧に言うのですか

面白い方！

すっぴん♡



ねえ…

マドンナ  
聖母のようだとはい  
言ってくれださ  
らないの…？

…あなたこそ  
なんということを  
言うのだ



修道僧が  
神の母を称する  
など…不遜！

みだらな  
異端の行為だ！

まったく  
あいつも  
とんだ天使だぜ

聖女様も  
形無しだな

おい、  
聞こえるって  
行こうぜ

司祭殿！

この僧院には  
反キリストではなく  
パピロンの大淫婦が  
いるようすな！

こんな侮辱は  
生まれて  
初めてだ…！

…あなたの御剣、  
いきり立って  
まるで怒れる  
天使の剣ですね

こわいこわい

では  
私これで…

あまりの義憤に  
勃起が収まらぬ

断じて  
ない情などでは



ま：男子修道院に  
つきものの悪癖とい  
やつですか

彼らの非礼を  
お赦しください  
若し修道士ばかりゆ  
制御の行き届かない  
ことがある

悪魔というのは  
美しい姿をして  
いるとも聞く……

私は盲目ゆえに  
誘惑に乱される  
恐れがないのが幸い

さあ……私は  
異端審問官では  
ありませんから

しかし……  
哀れな子なのです

やはりあの  
天使が……

わからない……！〈天使〉は悪魔 - 反キリストではないのか……！？



軽薄に見えた僧たちの  
印象に反し礼拝は  
厳かなものだった

天使の祈る姿など  
清廉そのもの

むしろ異形の身の  
私の方が悪魔では  
ないかとすら  
思えてくる……



神を否定する  
悪魔があれほど  
美しく祈るもの  
だろうか？

私は悪魔など  
遣わさなかったのでは  
ないか!?

しかしてこの勃起はどうだ！  
なつかしい悪魔の気配に  
いきり立っているではないか！



いいえ  
あなたの魔羅は  
悪魔に反応して  
いるではありません

！  
：修道士が  
女人の部屋に  
軽々しく  
入るものではない

ふふ：  
客人の世話を  
言い遣ってきた  
ものですから



え？

でも聖女様は  
性の別を超えた  
天使に等しき  
お方なのでは…？

詭弁で  
誤魔化すな！



お疲れでしょ？  
揉みますね

きゅん  
きゅん

おい近…

ま、魔羅に  
触れるな  
汚らわしい…！





とろろ...

私の右の角に  
びったりですね



あら...それなら



時に...この  
折れた角に  
心得はないか？  
同じ角を持つ  
悪魔を探して  
来たのだが

ここは  
見当違い  
だったようだ



ズ  
ズ  
ズ

やはりこいつが...  
もはやこのまま  
聖魔羅で滅殺  
せしめるしかない...

悪魔滅ぶ...!!



似合う...?

!?

角の折れた悪魔...  
反キリスト!

くそっ!





長じてからは初めての……っ  
魔羅すべてが包まれる感覚……!

お……ッほ

に……人間の喉ではあ……ありえない……!

聖魔羅が喉奥の先まで  
吸い込まれる……!



聖職者のくせに  
イケナイ女……♡

ザイですよ……♡  
聖液で私の罪の舌を  
清めて♡

乱暴に私の角掴んで  
ロマンコ犯すなんて  
ちよっと興奮  
しちゃったな……



射聖すッ

調子に乗るなよ  
淫売があくくッ

おウッ

聖液で  
息の根止めてくれる

いけませんよ  
女性がそんな  
乱暴な口を……♡

天に召されるような射聖感……!

うおおおおおおおおおッ

ツクソ死ぬッ

普通の悪魔なら  
死んでる  
射聖量だぞ

本当に  
黙示の悪魔  
反キリスト……

臓腑に聖液<sup>ホーリク</sup>叩き込んで  
滅びぬのか……!

げほ

ふふ……  
女性にしては  
なかなかの  
オトコ汁……

私からも  
お返しします

そうだ  
なくした角  
返してもらったから

ね

……  
♡



へばってるのに  
全然萎えない  
ですわえ

角を折っておきながら  
私を殺し損ねた  
憎い女が直接  
出向いて来なかったのは  
残念ですけど……

腹いせにあの女の  
秘蔵っ子を  
墮落させて  
やろうかなー

ハ

馬鹿な……  
貴様こそ自ら  
滅殺されに来るとは  
殊勝なことだ

えー？でも  
聖女様ずっと  
私のおっぱい  
見てました  
よね……

晩課の祈りですら  
チンポガチガチに  
おっ勃てて……

だからわざわざ  
来てあげたん  
ですよ？

ツ！！

私と接吻するの  
きもちよかった？

ああ……？

おっ前が  
勝手に貧相な乳  
見せてきたん  
だろ……がッ

聖職者が  
欲情など  
するかッ

まして  
そ、そんな  
貧弱な体に……

ふっ……  
必死ですね……

甘い息……

もしかして……  
童貞？

……修道女が  
非童貞で  
たまるかッ

いいんですよ……  
さわっても

鈴の音のような  
声……

悪魔の吐息は  
硫黄臭い火炎と  
聞くのに



あ...♡

やだ...♡ いた...♡

ほん♡♡  
も...♡ やさしく...

ね?  
さくらんぼ  
みたいに  
やわらかくて  
きもちいいでしょ?



こいつの吐息は  
甘い毒のよう  
心地いい...

悪魔が  
うまく化けた  
ものだな

男のくせに  
なんて  
いやらしい...

悪魔に男も女も  
ないですよ

ふふ

ねえもつと  
さわって?



聖女様の  
手マン  
すてき...♡

あ...♡



両性具有!



あ...♡  
あ...♡  
イヤ...♡

ニギハヤク...





あらやだショックで  
正気になっちゃった  
かしら

そう！  
あなたと同じ  
いやらしい体  
なんです

ば...  
馬鹿な  
同じなものか

ふっ...では  
悪魔被いの続きを  
いたしましょうか？

この私が...  
悪魔などと

あなたの  
たくましい魔羅で  
私の穢れた穴を  
罰してください...



ヴァギナ  
玉門か...

アナル  
裏門か...

どちらも  
地獄の門です...♡

バ

ウア

本



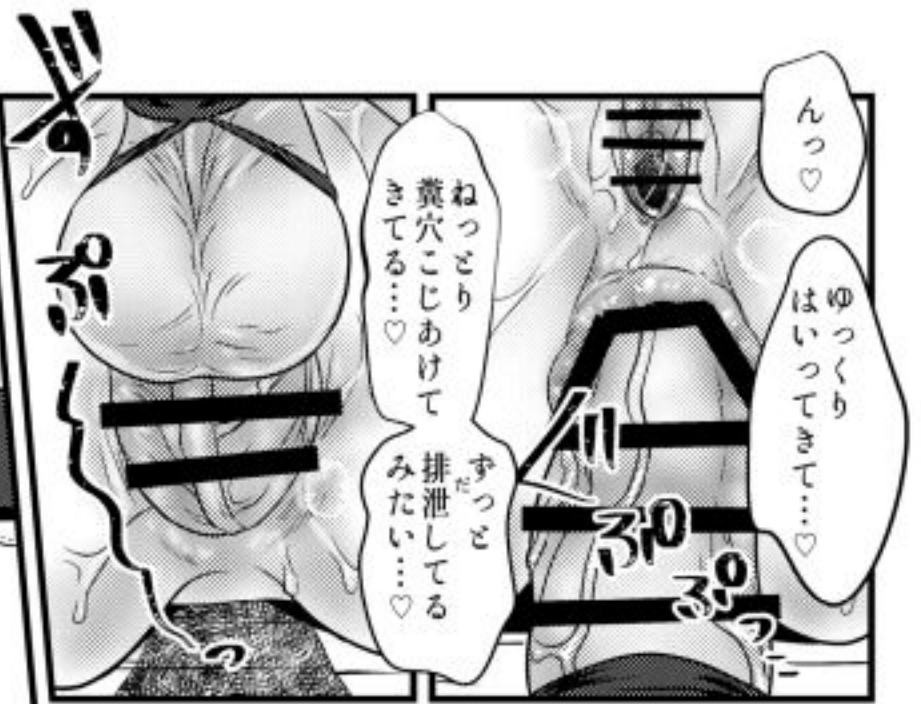


お前と睦言など  
交わす気  
ないからな

くッそ  
売女が  
うるさいんだよ

糞穴刺し貫かれて  
ヨガってるんじゃないぞ

イヤですね  
そんな有様で  
何をイキリ  
散らして  
いるんですか



んっ♡

ゆっくり  
はいつてきて…♡

ねっさり  
糞穴こじあけて  
きてる…♡

すっど  
排泄して  
みたい…♡



ほら  
へばってないで  
もつと獣みたく  
ケツとチンポで  
ホモ  
男色しましょ♡

悪魔絨衣に  
かこつけて  
いやらしい  
雄の獣欲を  
悪魔の糞穴に  
ぶつける  
ホモ聖女様♡



はあ…♡

他の修道士なんかじゃ  
ゼツタイ届かない  
どこまで  
みたされてる…♡

おっ♡

お尻いい♡

イケナイ  
どこ…♡

お尻すき…♡

ねばっ♡





ご自分でも  
おわかりでしよう？  
これ以上なく明快な  
男色糞穴交尾

姦淫の罪



聖女などと  
持ち上げられて  
そのくせ

あなたは自分の  
魔羅の聖性を  
信じられないん  
だ……

背信、疑信は  
悪魔のもの  
お手のもの



やっぱり  
私とあなたは  
同じ……

世迷言だッ！

ん♡

あ♡

悪魔の言葉が  
胸を抉る理由は  
わかって……

びーぶっセックス  
すきい……♡

ああ……♡  
その甘く擦るの  
いいです

ふふ、人は胸の内を  
言い当てられると  
逆上するもの  
ですからね

私の心を  
鏡のように  
映しているからだ

へたれた腰使い  
だけど  
乱暴されるより  
きもちいかも……

私はお前とは違うッ

悪魔などとは違うッ

私は……

私は何者なのだ……

嫌でも目に入る

悪魔の尻を犯して  
悦ぶ自分の姿

ここでお前を  
居れば  
今度こそ  
天使になれると  
思うよ

死だから

かつて奇形児と  
蔑まれた私は  
今では天使と  
崇められる

いつも大人たちに  
言われるままに  
甘んじて生きてきた

まあ！  
チンポ女が  
天使だなんて…

傲慢…

だんだんチンポ  
はやくなっ  
てくるっ♡

すき♡  
すきなここ  
に  
あたるう♡

はは…  
だめかな？

私が天使だったら  
お前のことも  
赦せそうなのが  
するんだけどな…

私には  
確かな自分の  
かたがないの

でも今はまだ  
だめだな…

赦せない

前から聞きたかったんだよな

今……

初めて自分の意志で何かをしたいと強く思えた

殺す

お前らって何が楽しくて人間を墮落させてるんだ？

見てくれだけはあんなに綺麗に祈るくせに……

なあ……教えてくれよ

あ、

くっ♡

私は悪魔だからいいけど人間相手にこんなことしちゃダメなんですからねっ♡

折れちゃいけないとこ信じらんない……

お前にしか安心しろよ

死ね

やっ♡

そんなこと言われたらあ……

すっ……♡

すきになるう……♡

おん

私もなんだか  
お前が  
好きになって  
きたよ…

ありがとうな

大事なことに  
気づかせて  
くれて

気づいたこと……

おっお尻♡  
すっご  
ジンジンして♡

嫌あ…♡  
童貞ホモ女のチンポに  
イカされるう…♡

私は別に  
天使じゃなくていい

死ね!!

糞の穴に  
射聖すぞッ!

こいつ  
悪魔と同じで…

うらや♡  
ぶっ殺して♡

私のきたないお  
洗って  
きれいにしな

っあ…♡  
せーしよお…♡  
あついで

チンポで  
死ぬう…♡







おとし子モニカ  
お前が天使か  
はたまた悪魔か

自分が何者かを  
本当に決めるのは  
私でも民衆でもない

いわんや自ら正統を嘯く  
教皇庁をや



だから…

私を罰してくれる  
人を待ってた……

私もかつては  
天使だったものですから

日が落ちる……

お前が自分の似姿から  
何を観取するか……  
神の教えと剣のほか  
知らぬこの身に  
予見するべくもない

しかしお前が  
その姿形を  
恥じる必要はないのだ

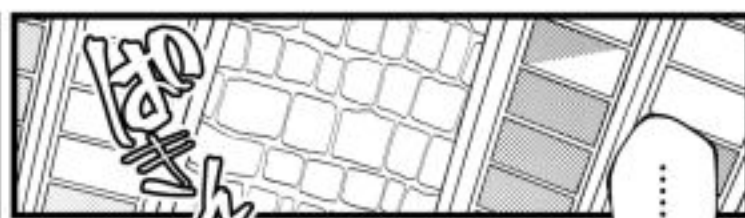
一三一七年八月二七日



私の髪だ

ほッ

代わりにおけ



……



お前の右の角  
またもらうぞ

え？  
なんで  
ですか  
私は眼玉を  
返したのに  
……



フランチェスカと  
全然違う

え？

何それ  
ダサい

日和って  
ますねえ

なッ……



いつか私がお前を  
赦せるときまで……

今はまだ  
ダメだ



すっ...

きっとまた私にく会にきてね

でもうれしいな...



悪さするなよ

どうかしら...

...



明朝ここを発ちます

どうもここには私がいま被うべき悪魔がいらい



私は神の被造物には等しく赦しの機会が与えられるべきだと考えています

たとえそれが悪魔だとしても...



司祭殿はご存知だったのですね

天使が...

あわれな子だと  
言ったでしょう



オリゲネス

正統ローマ教会では異端とされる教説ですね



修道院は本来神を信ずる寄る辺なき子らの宿り木であるはず

信仰の仕方の違いに正統か異端かなどとどうして問えましょうか?

ローマ教皇庁では口が裂けても言えませんがね...





この魔羅こそが  
あるがままの  
私の姿

天使か悪魔かなんて  
神にしか  
わからないが

悪くない……  
なんて気持ちに  
なるのは初めてだ



悪魔を殺し  
損ねるのも  
初めてだ

修道院長には  
なんと言った  
ものかな

お……



明けの明星……

fin.

H o l y P e n i s

聖魔羅

S p e r m a

御靈

TEENANA Presents